

# 佐賀建設新聞

発行所  
株式会社 建設新聞社  
〒849-0301  
小城市牛津町乙柳1145-7  
Tel. 0952-66-5750 (代)  
FAX 0952-66-5751  
購読料 月額5,940円(税込)  
毎週火・木・土曜日発行  
日本専門新聞協会会員  
ホームページ  
<http://www.kensetsunews.co.jp>  
e-mailアドレス  
kssaga@lime.ocn.ne.jp

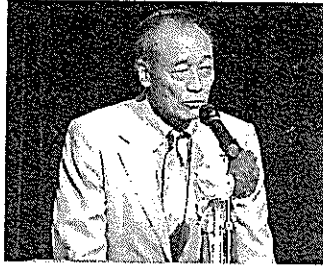
## 14年度研究成果発表会

# 水質浄化や有明海再生

### 原社長「挑戦する勇気が大切」

## 日本建設技術(株)グループ

挨拶する原裕社長



日本建設技術(株)（本社・唐津市北波多、原裕社長）グループは12日、唐津シーサイドホテルで2014年度研究成果発表会を開催した。関連5社の社員、来賓など約200人が

出席し、ミラクルソル（発泡廃ガラス）を用いたF.W.G透保水性舗装工法や水質浄化（クリスタルバイオ）、有明海再生などに関する活動報告を行った。発表会は毎年開催しており、今回で11回目。

冒頭、原社長は「新分野に進出して起業化する事業を決めたらスピード感をもって邁進することが大事。成功に向けた気迫と心がまえを持ち、夢と希望を挑戦する勇気に変えて

いくことが大切になる。会社のトップの夢がそれぞれの会社の方針になる訳であり、社員の意思を統一して同じ目的に邁進し、今年も更なる飛躍を目指していきたい」と挨拶した。

成果発表では、原社長が13年4月の創業60周年記念式典および祝賀会、同年11月のミラクルソル技術講習会など同グループの13年度の活動内容を紹介。F.W.G透保水性舗装工法

については施工実績や工法の特徴などを説明し、「温度測定結果から、降雨後の路面温度の上昇が最大で17度程度抑制されることを確認し、6日程度は効果が持続する。玄海町立小中一貫校整備でも採用された」と話した。

続いて、企画開発戦略本部技術研究所水環境研究室の飯田拓史主任が「クリスタルバイオの硝化反応特性と工学的視点から見た水産養殖施設的设计手法」の演題で成果発表。水産総合研究センター西海区水産研究所のマグロ飼育研究施設（長崎県）でクリスタルバイオが生物ろ過材として採用されたことを報告

した上で、「ろ過材として使用されるサンゴは入手が困難になる可能性があるが、クリスタルバイオの需要は高まると思う。今後、水質浄化におけるクリスタルバイオの適正使用容量を研究していく」と説明した。



会場のようす

最後に技術戦略本部

の林重徳取締役待遇統括本部長（佐賀大学名誉教授）が有明海再生をテーマに発表。その中で「有明海で使用する海苔活性処理剤の質と量を04年の水準に戻し、環境悪化の著しい湾奥干潟で耕耘混合による底質改善事業を拡大すれば、湾奥部の底質環境は5年程度で急速に改善する」と話した。

このほか、功労者表彰や新入社員の紹介があり、会場を移して懇親会も行われた。